

この連載は、奥州めぐみネット会員の 特定非営利活動法人 イーハトープ宇宙実践センター
大江昌嗣理事長 の執筆により、6回シリーズで掲載予定です。

《新連載》地球規模の異常気象①

大江 昌嗣

1. 異常気象とは、その考え方

気象庁では、「過去30年間の気候に対して大きな偏りをもつ天候」を異常気象と定義している。一方、気象庁の“異常気象レポート”には、「過去に経験した現象から大きく外れたもので、人が一生の間にまれにしか経験しない（過去数十年に1回程度の頻度で発生した）現象」とあり、やや曖昧さが感じられる。世界の気象機関では、より細い定義を用いており、「平均気温や降水量が平年より大きく偏り、それも25年以上の間に1回しか起こらない程度の大きさの現象を異常気象」としている。

これらの定義に従うと、太平洋赤道域の海水温の上昇を起こすエルニーニョ現象や、逆に海水温の低下をもたらすラニーニャ現象などの海水面の南方振動（ENSO）は、異常気象の原因の一つとされて来たが、これらは数年の周期で起こるものであり、異常気象とは言えない。異常気象はもっと予測し難いものであると言えよう。

一方世界の研究者から、地球温暖化の影響で従来にくらべ、より激しい豪雨が頻繁に起こっているとの研究が発表されており、この傾向が進めば各地での洪水が激化し、穀物や生物への被害の拡大が心配される。これは、すでに従来の異常気象の定義を変えなければならないのかも知れない。

人間が排出する温室効果ガスにより地球が温暖化する中で、降雨パターンが変化し、湿潤地域では雨が多く、乾燥地域では乾燥がひどくなり、強風発生も多くなったと指摘されるからである。

第3回「里山フェスタ」が開催されます



岩手県土の大きな割合を占める農山村の里山地域。

やま、まきば、田畑には、多くの恵みが埋もれています。そんな里山の恵みを資源、素材として活かして生産活動や工芸活動をしている仲間が里山の地を集って、生産物や作品を展示販売する年に一度のお祭りです。

- ・日 時 : 2013年8月18日(日) 10時～
- ・場 所 : 奥州市江刺区広瀬字松館 89 里山農場・うたがき優命園内
- ・内 容 : *里山ランチ&カフェ *スライド上映 *観察会
*里山体験(樹木クライミング・アロマ)
*ワークショップ(ラタトゥイユ作り・羊毛ニードル)

・出展者

AL FIORE / 和一郎の蜂蜜 / やさいっこ村 / ミズサキノート / JP-STYLE /
ミトン / 風蔵 / 花子 / たのし網 / やまんば工房 / KOSHIKA / ānuenue makani /
Woodworks crando / 里山の休日「ほどほど屋」 / 小さな魔女の店&ゆびこびと /
炭屋NOBU / のふうぞ / 漢方アロマ Uta / 布つなぎ手古 / ナチュラルハウス /
ちいさな野菜畑 / うたがき優命園 / 里山生活学校



詳しくはホームページ・ブログでご確認ください。(7/1 から出展者の紹介等が始まります)

ホームページ : <http://satoyama.sunnyday.jp/index.html>

ブログ : <http://blog.canpan.info/satoyamalife/>

(奥州めぐみネット会員 里山生活学校より)



「ホタルの里」づくり～古道下・要害ホタル保存会の取り組み～

胆沢区若柳の「古道下・要害ホタル保存会」は、年々減少しているホタルの保護のため、平成17年5月「ホタルと人が共存する里づくり」をテーマに、地域や子供会を中心として、ホタルの輝きを皆で感動し、後世に伝えることを目的としてスタートしました。

主な活動は、地区民全員参加による年1回の土手の草刈りや有志による年2～3回のごみ回収、子どもたちによる年3回の水質調査と年1回の水生き物調査、ホタルの餌となるカワニナの購入と放流などです。

また、毎年7月中旬には、県の環境アドバイザーや自然環境指導員を講師に学習会を開催し、その後にホタル鑑賞を行っております。

巾ノ下水路は、ブロック内部が空洞で雑草が生える、いわゆる「ホタルブロック工法」を取り入れて整備した水路ですが、排水路であるためなかなか水質が向上しないうえ、水路周辺の乾田化が目立ち、ホタルには厳しい状況にあります。今後もこの地域の合った方法で、子どもたちと一緒に活動を継続し、豊かな文化や自然に接することに関心をもってもらいたいと思っています。

(奥州めぐみネット会員 千葉 誠さんより)



春の自然観察会

自然環境部会は4月25日(木)、胆沢区内において、「春の自然観察会」を実施しました。

当日は、会員など15名の参加をいただき、鈴木部会長講師のもと、尿前溪谷周辺からの奥州湖見学や、この時期のみ見ることが出来るキクザキイチゲ、ショウジョウバカマ、カタクリ等の山野草の観察も行いました。

奥州市内の素晴らしい自然を再確認することが出来ました。



名水探訪 & ビューポイント発見ツアーin江刺



満開のレンゲツツジ



自然環境部会では、6月7日(金)に江刺区米里・伊手地区にて、「ビューポイント発見ツアー」を開催しました。(参加者：23名)

当日は、発見ツアーでは初となる「名水巡り」も併せて行われ、米里地区にある黄金延命水と金山水、伊手地区にある金名水の3ヶ所を巡り、各地区で名水として先祖から守られてきた“宝”を味わってきました。

また、阿原山では、頂上からの景色を楽しんだ他、同地に予定のある「国際リニアコライダー建設計画」の概要について、市職員より説明を受けました。



④低線量内部被曝の人体被害の実例（前号からの続き）
ウ）日本に投下された原子爆弾

1945年8月6日、9日。広島と長崎に投下された原子爆弾で、30万人もの人々が尊い命を失われ、存命された方々も、多重ガンや次々と襲いかかる病魔に、多難な毎日を送ってられました。

2003年4月、原爆症認定集団訴訟に306名の方々が提訴なさいました。58年たち高齢になられた被爆者の方々が、病気をおして、なぜ裁判に立ちあがられたのでしょうか。

それまで、国では、「原爆の放射線が2キロより遠くに達することはない」「仮に達したとしても微量だから健康に影響がない」「数十年もたってから疾病を引き起こすことは考えられない」という立場で、原爆症の認定を却下し続けてきたのです。2003年3月時点で、被爆者認定手帳所持者27万9,174人中、原爆症と認定された人は2,172人、手帳所持者の1%にも満たないという驚くべき数でした。

2003年 原爆症認定集団訴訟 306名が提訴
一審、二審合わせて28回の判決、すべて原告勝訴
第3次訴訟東京地裁判決要旨 2011年7月5日
原爆放射線起因性の判断のあり方について（判決書 P279~P302）

「(3)原爆放射線の被ばくにおいては、初期放射線、放射線降下物による放射線及び誘導放射線の3種類が複合的に作用し、また、ガンマ線、中性子線、アルファ線、ベータ線といったそれぞれ異なる性質を持つ放射線が複合的に作用し、さらに、外部被ばくのみならず内部被ばくも起こり得たことや、放射線核種にも多様なものがあり得たことなどを指摘することができる。

この判決に至るまでには、①被爆者の手記集、意見陳述、原爆災害調査報告集等から、脱毛、下痢が「遠距離」でも後日「入市」でも起きたという多くの証拠②名古屋大沢田名誉教授原爆のキノコ雲は高さ幅共20キロに及びその下はおびた放射線物質が充満している③埼玉大市田教授ムラサキツクサの微量放射線による突然変異誘発の事実、食物連鎖による生体内濃縮の証言④琉球大矢ヶ崎教授、日大野口准教授内部被曝低線量被曝の証言⑤一橋大濱谷教授「遠距離」「入市」の「体」の傷の証言⑥被爆者医療に従事してきた全国の医師団意見、ガン非ガン共線量と相関関係がある。数十年たっても人体に種々な影響を与え続け病気の発症を後押ししている事実の証言等が、次々と法廷で明らかにされていったためでした。これに対して、国側の証人は、放影研の児玉氏、放射線医学総合研究所の明石氏だけであったことも特筆すべきことでしょう。

2011年7月9日の上記判決文にあるように、内部被曝の危険性は、はっきりと明らかにされそれを根拠に国は敗訴していたのです。

※この記事への質問を募集します。FAX、メールまたは郵送にて事務局までお寄せください。
連載の最終回に回答を予定しています。

おうしゅう環境フォーラム2013

平成19年度から毎年各地区持ち回りで開催している「おうしゅう環境フォーラム」ですが、7回目となる今年度は、胆沢文化創造センターを会場に、11月30日(土) 開催予定となっております。

このフォーラムは、めぐみネット会員を中心に実行委員会を組織し、企画から運営まですべて自分たちの手で行う、楽しく充実したイベントです。

7月3日(火)午後2時から胆沢文化創造センター研修室にて、第1回実行委員会議を開催しますので、一緒にやってみたい方、事務局までご連絡ください。

できることをできる範囲で構いません。多くの方々の力を合せてフォーラムを成功させ、環境の輪を広げましょう。

実行委員大募集!!



昨年度のフォーラムの様子

スモーカーズ・フェイス(タバコ顔)とは? その①

なにかを言う前に、まずはこの写真を見てほしい。この二人、実は同じ年齢なのです。



タバコの煙を喫い続けると、化学物質の影響で、喫煙者の顔は次第に独特の様相を呈するようになります。そのような顔は一般に「**スモーカーズ・フェイス**(Smoker's Face)」と呼ばれます。

もちろん喫い方や体質的な個人差があって、顕れ方の程度は千差万別です。が、しかし、世界中から集められた記録やデータには、どれもある一定の傾向が伺えるのです。

例えばここに、以前NHK番組で放送されたという双子の写真もあります。これは、実際に30年間喫煙して生じた差をカメラに収めたものなそうです。

さて右の写真、どちらが喫煙者で、どちらがそうでないか、あなたにはわかりますよね?



22歳の双子の40歳時を予想した写真 左が喫煙した場合
顔色が悪く、肌には張りがない。しみやそばかすが増え、乾燥した力の多い皮膚になる。歯にはヤニがつき、歯肉の色も悪い。タバコは10年以上老化を促進させる。
(アメリカ) Action on Smoking and Health ホームページより
<http://no-smoking.org/sept01/09-28-01-2.html>



なぜこのような違いが生じるのでしょうか?これについて、さまざまな研究者が見解を述べています。以下にそれらを要約すると・・・

まず、**皮膚を老化させる原因は、第一に加齢、次に紫外線、そして第三に喫煙である。**

特に喫煙はメラニン色素を増やし、コラーゲンを減少させるもととなる。

喫煙は、血行障害、体温低下、代謝低下、抜け毛増大などを促進するが、加えて体内では大量のビタミンCを消費させてしまう。ビタミンCは肌のコラーゲンを生成する際に必要な物質だが、それがタバコで発生する大量の活性酸素除去のために消費されてしまうのだ。

そのため、肌の衰えが**普通の人よりも早く進んでしまうことになる。**

どうやらこれが、**スモーカーズ・フェイス**(タバコ顔)ができるメカニズムみたいですね。しかし理屈はこれくらいにして、次回ではさらに突っ込んだ具体例へと入っていきましょう。

生活環境部会より (文責: 建部 信)

～みんなの力で地球を救おう!～ 6月は環境月間です

運営会議(4～6月)からの報告

- ・「おうしゅう環境フォーラム2013」の開催日及び会場について協議しました。
- ・総会で提案のあった、会議の際の茶菓の提供について協議した結果、代表または部会長の判断で提供できることとしました。
- ・同じく総会で提案のあった、事務局の自立化について協議しましたが、非常に重要な案件であることから、早急な結論は出さず、時間をかけて検討していくこととしました。
- ・ホームページをリニューアルしました。新しいアドレスはこちら



◇ つぶや記・あとが記 ◇

生業において、大型薪割り機械でキャンプファイヤー用の薪(1m)を提供している。キャンプファイヤーは、火の神への崇拝が起源といわれているが、現在のこどもたちは直接火を見ることが少なく、その体験は強烈であろう。薪が燃えている火を見ると和み、また、その反対の水というのも和みになる。火も水も人類にとってかせません。そこに必ず関わっているのが森の木である。その木を伐って生業にしていることに誇りを持っているが、ほとんどだれもやっています。森も自然循環をしなければなりません。

編集委員 千田 正典